

良質バットを目指して「バットの森」でアオダモ植樹

バットの材料となるアオダモの生産地である日高地方における良質なアオダモ資源確保のため、毎年「アオダモ資源育成の会」（ＮＰＯ法人）と共催で、「バットの森づくり植樹祭」を開催し、今年で１０回目を迎えました。

１０月１２日（土）、秋晴れのもと、新冠町の国有林（２１０１林班）で、地元新冠町などの日高管内自治体関係者、地元住民、地域のボランティア団体、森林愛護団体、緑のオーナー、セガサミーなど約８０名参加のもと、５００本のアオダモを植樹しました。

これまで毎年６～７月に開催してきたのですが、高校生野球部員が少しでも参加できるようにしたいという要望を受け、夏の大会時期を避け、今回の開催となった訳ですが、秋の大会時期と重なり、高校生野球部員の参加がなく、日程調整の面で反省しているところです。

植樹前には、「高校生がいないと予定時間で終わらないのでは」という不安や、「高校生がいらないから例年より植樹本数が少ないのではないかな」など意見を出されましたが、秋晴のさわやかな気候でもあり、汗をかき、心地よい風を受けながら、あっという間に作業を終えました。

参加者からは、「夢中になって植えていたら、こんな急な坂を登っていて驚いた」、「立派なバットになってほしい」、「もっと植えたい」など、達成感や今後への期待の声が寄せられました。

最後に、今年の記念標柱設置を行い、全員で記念撮影を行ったほか、参加できなかった高校生野球部員からのアオダモ植樹へのメッセージ絵馬が植樹木一本ごとに添付され、木に魂が宿ったように感じました。

